

国立国語研究所学術情報リポジトリ

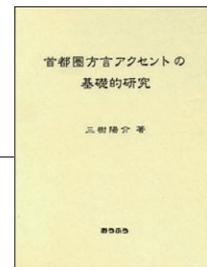
〈著書紹介〉 三樹陽介
著『首都圏方言アクセントの基礎的研究』

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-10-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 三樹, 陽介 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00000777

三樹陽介 著

『首都圏方言アクセントの基礎的研究』

2014年2月 おうふう A5判 336ページ 11,000円+税



三樹 陽介

1. この本の目的

この本は、これまで私が東京と東京周辺地域で行なってきたアクセントの調査研究についてまとめたものです。この地域のことばを「首都圏方言」という枠組みで包括的に捉え、そこに内在する多様なアクセントをヴァリエーションとして分類し、この地域のアクセントの実態と動態とについて論じました。博士学位論文を基にしており、國學院大學より刊行助成を得て出版しました。

首都圏方言はスタンダード現代日本語としての性格を持っていますが、標準語とも共通語とも異なり、伝統的東京方言とも異なります。東京や東京周辺地域の話者の大半は、漠然と東京と同じことば、あるいは共通語を話していると思っています。確かに、地域的な特徴の差異は曖昧で目立たず、一見均質なことばが話されているようにも見えますが、しかし、そこには地域差や個人差があり、多様性に富んだことばが話されています。首都圏方言はそうした多くのヴァリエーションの内在を許しつつ、緩やかな一体感を持った一つの言語体系として機能しているのです。さらに、首都圏方言が話される範囲は拡大し続け、周辺地域のことばを取り込みながら変容を続けています。

従来のアクセント研究では、類別語彙によるアクセント体系の記述・分析が基本となっていました。この本では、漢語や多拍語、複合語など、類別語彙以外の数多くの語や、アクセント規則についても調べました。これにより、限られた語彙の比較だけではわからなかったヴァリエーションの相違を、規則性を導き出すことで解明しようと試みました。なお、具体的な調査地域は、東京都（島嶼部除く）・埼玉県・神奈川県・千葉県の西側、山梨県郡内地方と設定しました。

2. この本の構成

この本は以下のように本編である第1～3章に序章と終章とを加えたものからなります。序章と終章とは首都圏方言の捉え方や問題点について述べました。第1章では、これまで東京方言アクセントで議論されてきた問題について、若年層への調査結果からその現状を示して論じました。第2章は、東京方言アクセントの古相を示すアクセントの特徴が東京周辺地域に広く分布しているとの観点から、いわゆる70km通勤通学圏内の輪郭部分に位置し、首都圏方言の最も外側に位置する山梨県上野原市方言をとりあげ、実証的に論じたものです。

第3章は、東京周辺地域に広がる首都圏方言のヴァリエーションについて論じたものであり、首都圏方言の外縁部に位置する地域方言のアクセントについて論じました。

序章 一首都圏方言アクセント研究の射程一

第1章 東京方言アクセントに関する研究

- 1 東京方言のアクセント体系
- 2 東京方言形容詞アクセントⅠ・Ⅱ類の統合実態
- 3 東京方言の形容詞アクセントⅠ・Ⅱ類の統合における世代差について
- 4 首都圏方言の形容詞連用形アクセントⅠ・Ⅱ類の統合実態
- 5 東京方言におけるA型B型アクセントの現在位置
- 6 東京都市圏における若年層のアクセントの個人差

第2章 山梨県上野原市方言アクセントに関する研究

- 1 山梨県上野原市方言のアクセント体系
- 2 山梨県上野原市方言アクセントにみられる特徴
- 3 山梨県上野原市方言における形容詞アクセントⅠ・Ⅱ類の統合について
- 4 山梨県上野原市方言の複合名詞アクセント
- 5 山梨県上野原市方言の複合動詞アクセント規則

第3章 東京周辺諸地域の方言アクセントに関する研究

- 1 東京都檜原村方言のアクセント
- 2 神奈川県小田原市方言のアクセント
- 3 若年層話者における埼玉特殊アクセントの現在

終章 一首都圏方言アクセントの特徴一

3. この本の意義

東京周辺地域では未調査地域も多く、十分な記述がなされないまま、ことばは変化・変容を続けています。首都圏方言アクセントのヴァリエーションを丹念に調べて規則性を導き出すことで、広い範囲で起こっている変容動態の大きな時間的な流れがみえてきます。また、それを支えている関東方言の特徴も明らかになります。この本が、今後この地域の調査を進める上で足がかりになれば幸いです。

また、国立国語研究所共同研究プロジェクト「首都圏の言語の実態と動向に関する研究」(プロジェクトリーダー：三井はるみ)等でのこの地域の研究が進められていますが、本書がこうした研究に少しでも貢献できれば嬉しく思います。

三樹 陽介 (みき・ようすけ)

国立国語研究所時空間変異研究系プロジェクト非常勤研究員、國學院大學文学部兼任講師。博士(文学)(國學院大學)。2013年9月より現職。

主な著書・論文:「首都圏における若年層のアクセントの現在」(『日語教育與日本研究之定位與展望論文集』, 2012), 「山梨県上野原市方言のアクセント」(『国語研究』73, 2010)等。

社会活動: 日本音声学会 2014年度全国大会運営委員。